

# 音楽科学習指導案

1 題材名 歌詞に込められた思いを感じ取り、曲想を味わいながら表現を工夫して合唱しよう

## 2 題材の目標

(1) 「HEIWA の鐘」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。

(知識及び技能)

(2) 「HEIWA の鐘」のリズム、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、合唱表現を創意工夫する。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 「HEIWA の鐘」の曲想や歌詞の内容、声部の役割と全体の響きに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に合唱の学習活動に取り組む。

(学びに向かう力、人間性等)

3 教材 「HEIWA の鐘」 仲里幸広 作詞・作曲

## 4 題材について

### (1) 生徒の実態

本学級の生徒は、授業の常時活動である校歌斉唱を明確な発音で元気よく歌うことができ、素直で明るい雰囲気がある。中学校に入学し変声期を迎えていない男子生徒もいる中ではあるが、初めての混声二部合唱を経験している。女声と男声が交互に主旋律を掛け合いながら歌うことなどを通して、声部の役割を意識する感覚も芽生えてきている。しかし、歌詞が表す心情や音楽の構造などを分析し、工夫を加えながら人に伝わるように表現する力はまだ不十分だと感じている。混声合唱ならではの深みや魅力を更に実感し、仲間と心を通わせながら合唱をする喜びを味わうことは、クラスが一つにまとまっていくきっかけづくりにもつながると考える。小学校では、コロナ禍により合唱をすることやそれを人に聴いてもらう機会が減っていたこともあり、のびのびと音楽表現をすることにやや縛りがあった。最近ではようやくその時代を乗り越え、音楽室が生徒の歌声が響く空間となった今、今後の合唱の基礎力の育成につなげ、表現を工夫しながら合唱に親しむ姿勢を育てていきたい。

### (2) 教材について

本題材で扱う「HEIWA の鐘」は、平和に対する力強いメッセージ性のある歌詞が印象的で、女声パートも男声パートも活躍でき、リズムに乗って歌いやすい合唱曲となっている。また、今年度は第1学年の生徒が校外学習で広島を訪れ、平和についての学びを深めてきていることもあり、生徒にとって作者の思いを感じながら表現につなげていく活動に取り組みやすく、歌詞を身近に感じられる曲ではないかと考えた。各声部が互いに掛け合う部分からは、歌詞と強弱の関係や曲想の変化を考えさせることにおいても適している教材である。

### (3) 指導に当たって

音楽は、聴いてくれる人がいて初めて成立するものだと考える。合唱を「うまく歌えた」、「たくさん声を出すことができた」、「他のパートにつられずに歌うことができた」といったような感覚だけで満足せず、合唱の創意工夫を楽しめる生徒に育つことをめざしたい。まずは、楽譜を見ながら、自分の役割を発見し、他の声部

の旋律の動きや響きを聴きながら、自分の声部の歌い方や強弱のバランスを意識して合唱できるような指導や手立てが必要である。また、よりよい合唱を創り上げるためにはどんなことが必要かを自分たちで考え、考えたことをもとに試行錯誤しながら追究する活動の充実を図っていききたい。また、表現する際には、発表の場を設けることで、仲間と一つのものをつくり上げることや聴いてくれる人の心を動かすことへの喜びを実感するとともに、新たな価値を見だし、今後も主体的に合唱の学習活動に取り組むことのできる力を伸ばしたいと考え、本題材を設定した。

## 5 本題材で扱う学習指導要領の内容

### 第1学年 A(1) 歌唱

- ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。
- イ (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。
- ウ (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けること。

### [共通事項] (1)

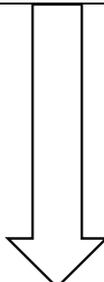
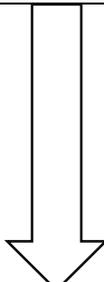
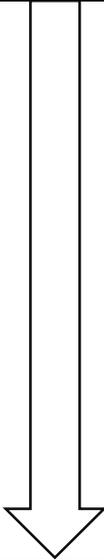
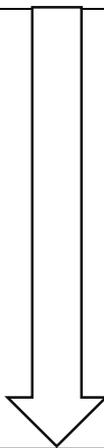
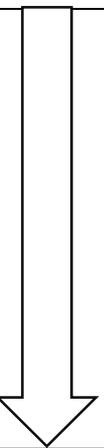
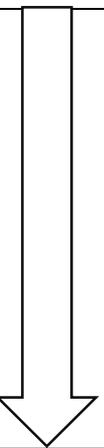
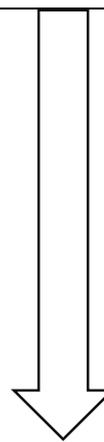
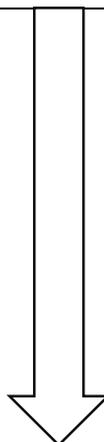
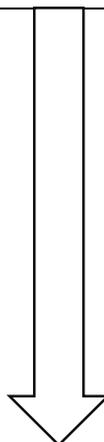
(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「テクスチュア」、「構成」)

## 6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 「HEIWA の鐘」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容と関わりについて理解している。</p> <p><b>技</b> 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。</p>	<p><b>思</b>① 「HEIWA の鐘」のテクスチュア、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、その関わりについて考えている。</p> <p><b>思</b>② 知覚・感受したこととの関わりについて考え、「HEIWA の鐘」をどのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p><b>態</b> 「HEIWA の鐘」の曲想や歌詞の内容、声部の役割と全体の響きなどに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に合唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

## 7 指導と評価の計画(本時4 / 6時間)

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価 (◆評価方法)		
		知・技	思	態
1	<p>◎ 「HEIWA の鐘」の曲想や歌詞の内容、作曲者の思いに関心をもつ。</p> <p>●歌詞を読んだり音源を聴いたりし、歌詞のもつメッセージ性について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音源を聴いて印象などを自由に話し合う。</li> <li>・歌詞を読み、どのような作者の思いを感じたのか、ワークシートに記入する。</li> <li>・曲の背景を理解する。</li> </ul> <p>●リズム・旋律・テクスチュアを知覚する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蛍光マーカーで、自分の声部の旋律の動きを線でなぞり印を付ける。</li> <li>・パート練習を行い、自分のパートのリズム、旋律を知覚する。</li> </ul>	↓	↓	↓

2	<p>◎「HEIWA の鐘」の声部の役割と全体の響きなどに関心をもって、合唱に取り組む。</p> <p>●声部の重なり方に関心を持ち、互いの旋律やテクスチュアを知覚する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ユニゾン」、「掛け合い」、「ハーモニー」の箇所を理解し、楽譜に書き込んだ上で、声部の役割について考える。</li> <li>・声部の役割を理解した上で、パート練習を行う。</li> <li>・全体の中で、パートごとに歌い、互いの声部の音を聴き合う。</li> <li>・Aの部分を合わせる。</li> </ul>			
3	<p>◎「HEIWA の鐘」の歌詞の内容や音楽の特徴に着目して合唱する。</p> <p>●音楽の構造を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「HEIWA の鐘」の歌詞から受け取られるメッセージや音楽の要素を楽譜から読み取り、A～Eごとに分析しながらワークシートにまとめる。</li> <li>・パート練習を行い、音のつながり方やフレーズとの関わりについて、旋律やリズムの動きを手で表現したり、歌ったりする。</li> </ul> <p>●歌詞の内容やリズム、テクスチュア、強弱に着目して全体で合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強弱やリズムを正確に捉え、楽譜に書かれていることに忠実に歌う。</li> <li>・1番を録音する。</li> <li>・録音を聴き、気付いたことをワークシートに記入する。</li> <li>・録音を聴いて気付いたことを発表する。</li> <li>・出た意見を楽譜に書き込む。</li> </ul>	<p>◆ワークシート知</p> 		
4	<p>◎「HEIWA の鐘」曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを感じ取り、合唱表現を創意工夫する。</p> <p>●音楽を形づくっている要素に着目し、よりよい合唱にするための表現の工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や歌詞の内容と関わらせ、よりよい合唱にするための表現の工夫について考える。</li> <li>・自分の考えをワークシートに記入する。</li> <li>・全体で意見を出し合う。</li> <li>・出し合った意見を楽譜に書き込み、取り入れていきたい表現の工夫について整理する。</li> </ul> <p>●課題を意識して、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの思いが聴く人に届く合唱となるように、試行錯誤しながら合唱する。</li> </ul>		<p>◆観察 ◆ワークシート思①</p> 	
5	<p>◎「HEIWA の鐘」をどのように歌うかについて思いや意図を持ち、合唱表現を創意工夫する。</p> <p>●前時で得た課題について再度整理し、どのように歌うかについて、思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこの部分をどのような思いを込めて歌うかについて考え、ワークシートに記入する。</li> <li>・記入したことを発表する。</li> <li>・音楽表現がパート内で一つにまとまるように、パート練習を行う。</li> <li>・音楽表現がどのようにすれば聴く人にうまく伝わるのか、人の心に届く合唱を意識しながら、全体で合わせる。</li> <li>・2番まで合唱し、表現したい音楽の流れを掴む。</li> <li>・代表者が全体の合唱を客観的に聴き、感想を伝える。</li> </ul>		<p>◆観察 ◆ワークシート思②</p> 	

6	<p>◎創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けて合唱する。</p> <p>●これまでクラスでつくってきた「HEIWA の鐘」について意見を出し合い、演奏発表するときのポイントを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容、音楽を形づくっている要素や曲想、声部の役割について振り返る。</li> <li>・伝える相手のことを意識しながら、よりよい合唱をめざして曲全体の完成度を高める。</li> </ul> <p>●演奏発表し、録音する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕上げの合唱となるよう、最後に全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う。</li> </ul> <p>●「HEIWA の鐘」の合唱への取り組みについて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の録音を聴く。</li> <li>・題材を通しての感想を書き、今後も合唱の活動に取り組むに当たり、よりよい合唱をめざすために必要なことや大切なことをワークシートにまとめる。</li> <li>・意見を発表する。</li> </ul>	<p>◆ 観 察 技</p>		<p>◆ 観 察 ◆ ワ ー ク シ ー ト 態</p>
---	--	----------------------------	--	--

8 本時の学習

(1) 目 標 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを感じ取り、合唱表現を創意工夫する。

(2) 展 開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法	要素
<p>1 「HEIWA の鐘」の1番を合唱し、ウォーミングアップをする。</p> <p>2 前時の学習を振り返り、今後の活動に取り入れていくことを確認する。</p>	<p>○ふさわしい発声の仕方や身体の使い方を呼びかけながら、のびのびと歌わせる。</p> <p>○前時の録音を聴いて得た気づきについて確認させる。</p>		
<p>歌詞の内容、テクスチャ、強弱に着目し、合唱表現を追求しよう。</p>			
<p>3 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを感じ取り、どのように歌うかについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A と B の部分を全体で考える。</li> <li>・ C～E の部分について自分の考えをワークシートに記入する。</li> <li>・ ペアで交流し、全体で共有する。</li> </ul> <p>4 表現の工夫として取り入れることを整理し、A の部分から順に全体で合唱しながら試していく。</p> <p>5 よりよい合唱にするために、表現の工夫をする必要性について振り返る。</p>	<p>○最初は教師が表現の工夫についての方向性を示す。</p> <p>○個人で主体的に取り組ませる。</p> <p>○歌い方シートも参考にしながら、どのように歌うかについて考えさせる。</p> <p>○仲間の考えに触れ、曲とより深く向き合わせる。</p> <p>○表現の工夫について出てきた意見をモニターの楽譜に書き込み、共通理解ができるようにする。</p> <p>○繰り返し歌うことで、実感できるようにする。</p> <p>○工夫を取り入れることで良くなった部分を具体的に伝えていく。</p> <p>○授業の感想を問いかけながら、数名に発表させる。</p>	<p>◇「HEIWA の鐘」のテクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、その関りについて考えている。</p> <p>◆観察・ワークシート【思①】</p>	<p>テクスチャ 構成</p>

(3) 評価及び指導 (手立て)

〈思考・判断・表現〉

A 「十分満足できる」と判断される具体的な状況	「HEIWA の鐘」の強弱、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、曲想や歌詞の内容と関わらせ、どのように歌うかについて具体的に自分の考えをワークシートに書いている。 【思①】
B 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導 (手立て)	音楽を形づくっている要素に着目させ、前時のワークシートや他者の意見を参考にしながら、自分の意見に近いものをワークシートに書くことができるように促す。 【思①】